

あの人この人

酪農で頑張る



小見拓司さん(嶺町)

大量の化石燃料を消費した結果、気候変動による災害が現実化しつつあります。この問題解決のために2015年、国連は持続可能な開発目標(SDGs・エスディーゼーズ)を掲げ、世界各国は、この目標達成に向けて積極的な取り組みを進めています。この持続可能な開発には、二酸化炭素などを循環して利用する農林業が重要です。

しかし、我が国の農業の実態はどうでしょうか？後継者不足で離農者が増加し、豊かな自然を育む里山は荒廃しつつあります。ここ芳賀地区も例外では無く、雑草が生い茂った耕作放棄地が年々多くなっています。

この様な中、酪農の後継者として頑張っている小見拓司さんを紹介します。拓司さんは昭和36年、故小見修さんの次男として生まれました。修さんは指導者として芳賀地区に多くの酪農家を育てました。

しかし、これらの酪農家は高齢と後継者不足で相次いで離農しつつあります。これに対し、拓司さ

んは、修さんの後を継ぎ、妻幸江さんと共に約50頭近い乳牛を飼育し、月約2400kgの牛乳を消費者に届けています。お二人はこれらの牛を大切に育てています。その例として、牛は生まれるとトレーサビリティのために個体識別番号が付けられますが、お二人はこれらの識別番号とは別に、牛一頭一頭を名前と呼ぶようにしています。このような牛への思いを込めた幸江さんの作文は、平成27年に開催された酪農婦人全国大会で優秀賞に輝きました。牛は草を食べ、肉や牛乳として人間の食料になります。また、牛の排泄物は、たい肥として土に戻されます。拓司さんはこのたい肥作りにも力をいれており、排泄物を丁寧に攪拌して健全な発酵を促し、ふかふかとした大変良質なたい肥を作っています。そして、このたい肥は近隣の野菜農家の有機肥料として使用されています。拓司さんは、まさに持続可能な循環型農業の中心的役割を担っているのです。拓司さんはご自分の牧草地の管理のみでなく、離農者の土地の管理にも努力されています。この事を拓司さんにお聞きすると「農地は放棄すると再び復活することが難しくなるので守りたい」との話でした。

現在、我が国の食料自給率は40%を下回り、最悪の状態です。国際情勢や気候変動によっては輸入が断たれ、深刻な食糧難になることも予想されます。戦後の食糧難の時代には多くの国民が農家に助けられ感謝しました。環境が悪化する今、私たちは自然を守り、安全な食を生産する農業を理解し、再びエールを送る時だと思えます。

嶺町生涯学習奨励員 井上金治

前橋市立図書館芳賀分館だより

あたりらしく入った本の紹介

一般書

著者名

木曜日の子ども

重松清

新章神様のカルテ

夏川草介

歌舞伎町ゲノム

誉田哲也

まつらひ

村山 由佳

ニムロッド

上田 岳弘

1R1分34秒

町屋 良平

夢も見ずに眠った。

絲山 秋子

散歩するネコ(れんげ荘物語)

群 ようこ

指揮権発動

笹本 稜平

富山地方鉄道殺人事件

西村 京太郎

児童書・絵本

頭を楽しくきたえる！推理クイズ

天才ひっかけクイズ

にんじんじゃのおもしろにんじやずかん

オフロケット

はつくしよん

トイレロケット

おばけのアッチ スパゲッティ・ノックダウン！

砂に書いた名前(赤川次郎ホラーの迷宮)

お出かけは13日の金曜日(同右)

ほかにもたくさん新刊が入りました！

★毎週木曜日は休館日です。

◆21日(木)は祝日のため開館し22日(金)が振替休館日となります。